



現代文・知識

| | | |
|-----|----|----|
| 基本 | 標準 | 応用 |
| 19問 | 6問 | 2問 |

正解数をチェックしよう。

1 次の各設問に答えよ。

問一 次の傍線部の漢字をひらがなで直しなさい。

- 基本 (1) 金塊を掘り当てた夢を見る。
- 基本 (2) 寝台列車の旅を満喫する。
- 基本 (3) 父の書齋にある本を読む。
- 基本 (4) 大企業の傘下に入る。

問二 次の傍線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- 基本 (1) 商品の代金をセイキユウする。
- 基本 (2) 虹がきれいなコを描いている。
- 基本 (3) 卒業生に記念品がゾウテイされる。
- 基本 (4) 各国代表の主張がナンカした。

問三 次の□にあてはまる漢数字を書き入れ、それぞれ四字熟語を完成させなさい。

| | | |
|--------|--------|--------|
| 基本 (3) | 基本 (2) | 基本 (1) |
| □ | □ | □ |
| 部始終 | 変 | 人 |
| | □ | □ |
| | 化 | 色 |

2

次の意味にあてはまる語として最も適当なものを、後の各群の①～④のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

- 基本 (1) 否定的・消極的なこと。
 - ① ネガティブ
 - ② イニシアチブ
 - ③ クリエイティブ
 - ④ ポジティブ
- 基本 (2) 組織・体系・制度のこと。
 - ① プロセス
 - ② システム
 - ③ カリキュラム
 - ④ ブランド
- 基本 (3) 文章などを表現するための修辭法。
 - ① モチーフ
 - ② メッセージ
 - ③ レトリック
 - ④ プロット
- 標準 (4) 概念・観念・ものの考え方のこと。
 - ① ノウハウ
 - ② イマジネーション
 - ③ インスピレーション
 - ④ コンセプト
- 標準 (5) 宇宙論のこと。
 - ① アンソロジ
 - ② コスモロジ
 - ③ テクノロジ
 - ④ ソシオロジ
- 応用 (6) 規則・規範のこと。
 - ① イズム
 - ② セオリー
 - ③ コード
 - ④ モラル

3

次の意味にあてはまる慣用句を、後の空欄を埋めて完成させよ。
ただし、空欄一マスにつき一字とする。また（ ）内の指示に従い、ひらがなもしくは漢字で埋めること。



基本 (1) 不審に思う様子。

をひねる (漢字)



基本 (2) 考えを少しも口に出さず、そぶりも見せない様子。

にも出さない (ひらがな)



基本 (3) 自分のしたことに満足し、思わずにつこり笑う様子。

会心の
(漢字とひらがな)



基本 (4) 思い通りに事が進んで、いい気になる様子。

に乗る (漢字)



基本 (5) 不愉快になり、ひねくれる様子。

をまげる (ひらがな)



標準 (6) とても驚いた様子。

を丸くする (漢字)



標準 (7) うまくいって満足して喜ぶ様子。

に入る (漢字)



標準 (8) たいしたことはないだろうと見くびること。

高を
(ひらがな)



標準 (9) 心の中に何かたくらみがある様子。

に一物 (漢字)



応用 (10) 冷淡にあしらう様子。

木で
をくくる (漢字)



古文・知識

| | | |
|-----|-----|----|
| 基本 | 標準 | 応用 |
| 11問 | 16問 | 3問 |

正解数をチェックしよう

1

次の傍線部は現代語ではどのように音読するか。最も適当なもの
を、後の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

基本
(1)

世にしたがはむ人は、まづ機嫌をしるべし。

- ① したがわん
- ② したがはん
- ③ したがわむ
- ④ したがらむ
- ⑤ したがふらん

基本
(2)

思ひのごとくものたまふかな。そもそも、いかやうなる心ざし
あらむ人にかあはむと思す。

- ① おもひのごとくものたまうかな
- ② おもひのごとくものたまふかな
- ③ おもひのごとくものたまふかな
- ④ おもひのごとくものたまうかな
- ⑤ おもひのごとくものたまうかな

基本
(3)

三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。

- ① いとうつくしうてゐたり
- ② いとうつくしやうてゐたり
- ③ いとうつくしうてゐたり
- ④ いとうつくしゆうてゐたり
- ⑤ いとうつくしくてゐたり

基本
(4)

聞きしにも過ぎて、たふとくこそおはしけれ。

- ① たふとくこそおわしけれ
- ② たうとくこそおはしけれ
- ③ とうとくこそおわしけれ
- ④ とうとくこそをわしけれ
- ⑤ とふとくこそをはしけれ

基本
(5)

今ひとこそよばれていらへむ。

- ① ひとこえよばれていらへん
- ② ひとこいよばれていらへん
- ③ ひとこいよばれていらえん
- ④ ひとこひよばれていらえん
- ⑤ ひとこえよばれていらえん

基本 (6)

世の中いとわづらはしく、はしたなきことのみまされば……。

()

- ① わずらはしく
- ② わづらはしく
- ③ わずらわしく
- ④ はづらわしく
- ⑤ はずらわしく

基本 (7)

おのがかくけふあすにおぼゆる命をば……。

()

- ① けふあす
- ② けうあす
- ③ きようあす
- ④ きようわす
- ⑤ けうふあす

基本 (8)

いまは明けぬるに、かうおほとのごもるべきかは。

()

- ① こおほとのごもる
- ② こうおほとのごもる
- ③ かうおほとのごもる
- ④ こうおほとのごもる
- ⑤ かもおほとのごもる

標準 (9)

家の作りやうは夏をむねとすべし。

()

- ① つくりやうは
- ② つくりようは
- ③ つくりやうわ
- ④ つくりやうわ
- ⑤ つくりようは

標準 (10)

かぐや姫にいふやう「なんでふ心地すれば……」

()

- ① なんぢよ
- ② なんじよう
- ③ なんでう
- ④ なんどふ
- ⑤ なんとふ

2

(1) 次の文章の傍線部①～⑤の品詞として最も適当なものを、後の①～⑦のうちからそれぞれ一つずつ選べ。(同じものを二度選んでもよい。)

- 標準 (a) () () () () () ()
 標準 (b) () () () () () ()
 標準 (c) () () () () () ()
 標準 (d) () () () () () ()
 標準 (e) () () () () () ()

高名の木のぼりといひし^aをのこ^b、人を拵^cてて、高き木にのぼせて梢^dを切らせしに、いとあやふく見えしほどは言ふこともな^eくて、おるる時に軒長^fばかりになりて、「あやまちすな。心しておりよ。」と言葉^gをかけ侍りしを、……。

- | | | |
|------|-------|--------|
| ① 動詞 | ② 形容詞 | ③ 形容動詞 |
| ④ 名詞 | ⑤ 助詞 | ⑥ 助動詞 |
| ⑦ 副詞 | | |

(2) 次の文章の傍線部①～⑤の品詞として最も適当なものを、後の①～⑨のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

- 基本 (a) () () () () () ()
 基本 (b) () () () () () ()
 標準 (c) () () () () () ()
 標準 (d) () () () () () ()
 標準 (e) () () () () () ()

かへすがへす、初心^aを忘るれば初心へかへる理を、よくよ^bく工夫すべし。初心を忘れずば、後心は正^cしかるべし。

- | | | |
|-------|-------|--------|
| ① 動詞 | ② 形容詞 | ③ 形容動詞 |
| ④ 名詞 | ⑤ 副詞 | ⑥ 連体詞 |
| ⑦ 接続詞 | ⑧ 助動詞 | ⑨ 助詞 |

3

次の文の傍線部の意味として最も適当なものを、後の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

標準 (1) よどみに浮かぶうたかたは、かつ消え、かつ結びて、久しくとどまりたるためしなし。

- ① 試験
- ② 試案
- ③ 挑戦
- ④ 行爲
- ⑤ 先例

標準 (2) 世に語り伝ふること、多くは皆そらごとなり。

- ① 文学
- ② 批評
- ③ 賛辞
- ④ 偽り
- ⑤ 身の上話

標準 (3) 茶の湯は……実意を以て交はるべきなり。是を一期一会といふ。

- ① 一生
- ② 一年
- ③ 一月
- ④ 一日
- ⑤ 一瞬

標準 (4) 車持の皇子は……玉の枝を作り給ふ。かぐや姫のたまふやうにたがはず作り出づ。

- ① 心を込めて
- ② お互いのために
- ③ だれかのものとして
- ④ 同じでなく
- ⑤ 違わず

標準 (5) (西光は)もとよりあらがひ申さぬうへ、糾問はきびしかりけり……。

- ① 約束し
- ② 言い争い
- ③ 暴力をふるい
- ④ 欠点をさがし
- ⑤ 競い合い

標準 (6) 園の別当入道はさうなき包丁者なり。

- ① それほどでもない
- ② 並ぶものがない
- ③ 華やかな
- ④ 有名な
- ⑤ そそっかしい



標準 (7)

野山にまじりて竹を取りつつよろづのことに使ひけり。 ()

- ① たびたびの
- ② 一生の
- ③ 一瞬の
- ④ 多くの
- ⑤ 何らかの



応用 (8)

「さはることありて出で給ふ。」と言ひなして、 ()

- ① 行かなくてはならないこと
- ② どうでもよいこと
- ③ 都合が悪いこと
- ④ 信じられないこと
- ⑤ 反発すること



応用 (9)

世のそしりをもはばからず、人の嘲りあざわらひをもかへりみず。 ()

- ① 世間のねたみ
- ② 世間のうわさ
- ③ 世間の非難
- ④ 時代の傾向
- ⑤ 時代の名声



応用 (10)

少し遠き柱もとなどにゐたるを、とく御覽じつけて……。 ()

- ① ゆっくり
- ② じっくり
- ③ はるかに
- ④ やがて
- ⑤ さっそく



古文・読解

次の文章を読んで、後の各問い（問一〜七）に答えよ。

奈良に、松室(注1)と云ふ所に僧ありけり。官などはわざとならざり
けれど、徳ありて用ゐられたる者になんありける。そこに、幼き児(注2)の、
ことにいとほしくするありけり。この児、朝夕(注3)法華経をよみ奉りけれ
ば、師これを受けず、『幼き時は学問をこそせめ。』いとげにげに
しからず、(注4)などいさめられて、(注5)一度は随(注6)ふやうなれど、(注7)ややも
すれば、忍(注8)び忍(注9)びになん、これをよむ。いかにもこころざし深き
事と見て、後には、誰も制(注10)せずなりにけり。
かかる程に、十四、五ばかりになりて、この児いづちともなく失
せぬ。師大きに驚きて、至(注11)らぬくまもなく尋ね求むれど、更になし。
『物の霊(注12)なんどに取られたるなめり』と云ひて、泣く泣く後の事なん
ど申(注13)ひてやみにけり。

(注) 1 松室——奈良、興福寺にある僧侶の部屋の一つ。

2 受けず——認めず。

3 くなめり——であるようだ。「なるめり」の変化したもの。

(『発心集』による)

正解数をチェックしよう。

| | |
|---------|---------|
| 標準 △ | 基本 ○ |
| 2問 | 5問 |
| 2問 | 2問 |

問一 波線部⑦「随ふやうなれど」、①「云ひて」の主語として最も

適当なものを、次の①〜⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

基本 ○ ⑦ () () () () ()

標準 △ ① () () () () ()

- ① 官
② 僧
③ この児
④ 仏
⑤ 物の霊

問二 傍線部A「わざとならざりけれど」、D「この児いづちともなく失せぬ」、の解釈として最も適当なものを、次の各群の①〜④のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

△ 応用

A () () () () ()

- ① かるうじてならなかったが
② ことさらにならなかったが
③ すぐにはならなかったが
④ とうとうならなかったが

△ 標準

D () () () () ()

- ① この児はどこかへいなくなってしまった
② この児をどこかへ隠してしまった
③ この児はどこかで亡くなってしまった
④ この児をどこかで見失ってしまった

標準
問三

傍線部B「げにげにしからず」とは「不適當だ」という意味であるが、なにが不適當なのか。最も適當なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 法華經を読むこと
- ② 学問を行うこと
- ③ 後のこと
- ④ 官になること

()

基本
問四

傍線部C「これをよむ」の「これ」が指すものとして最も適當なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 手紙
- ② 文
- ③ 物語
- ④ 法華經

()

標準
問五

二重かぎ括弧「『幼き時は』」から始まる会話文の終わりとして最も適當なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。(a)～(e)は本文中の区切りの箇所の記事を示す。

- ① (a)
- ② (b)
- ③ (c)
- ④ (d)
- ⑤ (e)

()

応用
問六

傍線部E「至らぬくまもなく尋ね求むれど、更になし」を、人物を補って現代語訳せよ。

標準
問七

本文の内容と合致しないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 僧のもとにいた児は、仏道修行に励んでいた。
- ② 僧は、児が修行をすることを喜ばしく思い、ほめていた。
- ③ 児は十四、五歳のときに、僧の前から消えた。
- ④ 僧は児が亡くなったと思い、葬式の手続きをした。

()